

～ 『スマートオフィス化までの流れ』 ～

2019年12月発案 2022年3月吉日完成

当初の発案は、3年前の2019年になります。当時の代表取締役社長である梅澤氏と弊社の社屋を設計したウィックス設計事務所の瀬下氏が中心となり、目覚ましいICT技術やAI技術を取り入れ、環境に配慮し、更には近年頻発している災害時であっても機能できる新しいオフィスのスタイルが必要であるとの考えより、2019年12月に素案を作成し、翌2020年1月に基本方針が決定致しました。

当社の社屋は平成8年に完成したので、令和4年で26年経過します。オフィスにおいて重要な役割を果たすLANケーブル自体の耐用年数が約20～30年と言われておりますので、いつトラブルが発生してもおかしくない状況であったこともこの計画をおこなううえで非常に重要なポイントでありました。

そして、スマートに密度の濃い仕事ができるようなオフィスとしたいとの思いより、『スマートオフィス』という名称をつけ、このプロジェクトを利益のある年に実行に移そうという段階まで計画しました。

しかし大変残念なことに、このスマートオフィスの実施計画を作成した中心人物であった梅澤氏の勇退により、この計画自体が一度は閉ざされることとなりました。

梅澤氏の勇退により、弊社藤村 英明が新たに代表取締役社長に就任することになりましたが、2019年9月より約1年間、本社を離れて国土交通省の工事にて現場代理人をしていたこともあり、この計画自体をほとんど知ることはありませんでした。

久しぶりの長丁場となった国土交通省の工事が無事完了し、本社へ本格的に戻ったのが2020年の9月でした。

それからしばらくして、梅澤前社長より預かっている書類があると言われて、渡されたのがこのスマートオフィス実施計画でありました。

渡された資料はA4版のファイルとデータの入ったDVDが1枚でした。非常に興味のある内容でしたので、すぐに熟読しました。非常に分かりやすくまとめられた資料と今後のオフィスの在り方について様々な角度から考えていることに大変感銘を受けまし

た。また、同時にこのスマートオフィスについては、あなたに任せたとされている気がして、身が引き締まる思いが溢れました。

こうして、梅澤前社長の意思を受け継ぐような形で、この計画を復活させて実行に移したいと強く想い、早速弊社会長に内容を話して了解を得て、実行に移すこととなりましたが、改築工事を仕事の少ない冬の期間に行うべきであると思ひ、2020年の冬に行うにはあまりにも時間が少ないことから、1年延期することとし、その期間中に梅澤前社長の計画を基に、スマートオフィスの実施計画を再度見直すこととしました。

そんな中、新型コロナウイルスの感染が世界各地で急拡大し、2020年にはリモートワークが推奨されるなど、ニューノーマル時代と呼ばれ、今までのオフィスの在り方が大きく見直されることとなりました。そのため、弊社のオフィス改築にあたり、感染症にもなるべく対応できるオフィスとしたいというところもプラスし、更にはコロナ禍により働き方が多様化した変化に合わせたオフィスとしたいとの考えより、今後ますます増えるオンライン会議や集中できる個室の増設や、ライフワークも楽しめるカフェのようなりフレッシュルームなどを加えた新たなスマートオフィス実施計画を2021年5月に作成致しました。

作成にあたり、最先端のオフィスを見学に東京へ行く計画を立てましたが、なかなか新型コロナウイルスの感染拡大が収まらないことから、オンライン会議の活用や様々な会社へのアプローチをし、情報収集をおこない、本当に必要な先端技術は何か、事業規模や事業内容にあったオフィスの在り方とは何か、社内の基幹システムについては、クラウド対応型に変更するのか、または現状通りのオンプレミスとし、サーバーを活用するのか、フリーアドレス制とするのか固定席とすべきか等、本当に色々と悩みました。今の時代ですと、インターネットの活用でたくさんの情報を得ることはできますが、正直、大手ばかりの参考事例が多く、当社規模で更に建設会社のオフィスとなると参考になるものがほとんどありませんでした。そのため、オフィスで実際に働く従業員との意見交換を何度もおこない、新しい働き方の考え方等を何度も説明し、ようやく弊社にあった最終的な案に仕上がったのが、更に5か月後の10月でした。もちろん予算もありますので、そこから調整し、最終計画が11月の中旬に出来上がりました。

そして12月、いよいよスマートオフィス改築工事が開始されました。

何とか開始されたプロジェクトではありましたが、次々と決めなければならない課題が生じました。本来であれば設計士に任せれば良いのかもしれませんが、プロジェクト開始前に決まっていなければならないものなのかもしれませんが、先ほども話したように予算には限りがありますので、最終計画の時点では、オフィス全体の色使いまでは決まっていたのですが、詳細についてまでは決まっていなかったため、床材や壁材や天井、ドアの仕様やコンセントの位置やトイレの便器、洗面台にキッチン等、限られた予算の中でどこを削り、どこにお金をかけるかなど、私一人ではなく、使用する全員に意見を聞くとともに、設計士のアドバイスを参考に、次々と決定していきました。正直、この作業が一番疲れました。

最後に残ったのが、エントランス部の企業サインでした。この部分については、当初企業サインをステンレスで箱抜きし、浮かせ文字とするシンプルなものでしたし、それで良いとも思っていたのですが、なるべくお金をかけずに少しこだわったものにしたいなという思いが芽生えたことから、大きくは私が決めて、文字のサイズやデザインなどについては、事務所に在籍する従業員の意見を聞いて、当初とは大きく変わった企業サインを作成することにしました。

また、エントランスより見える廊下側の壁については当初、会社の沿革や会社情報などを掲載するスペースとしたら良いのではとの設計士のアドバイスがあったのですが、どうしてもこのスペースには、当社創業時の半纏を飾りたいとの思いがあり、この部分については、設計士と何度も打合せをして、飾られた半纏が引き立つよう工夫しました。この創業時の半纏については、現存しないものでしたので、当時の写真より復刻版として作成しました。こちらについては、別の記事にて詳しく話したいと思います。

そして、2022年3月末、ようやくスマートオフィスとして生まれ変わったオフィスが完成いたしました。当初は、使用するデスクや椅子などのオフィス家具も全て新しくする予定でしたが、予算の関係上、この部分については見送ることとして、とにかくオフィス空間そのものに投資すべきとの決断を在籍する従業員全員で決定することにしました。そのため今後、毎年少しずつオフィス家具を新調していきたいと思うので、最終的にはあと5年後くらいが、当初計画していたスマートオフィスの本当の完成形とな

る予定です。

とは言え、オフィスそのものの機能はすでに完成しましたので、今後新たな機能を持ったスマートオフィスにて効率良く、充実した仕事ができると思っておりますし、こんなオフィスで働きたいと思う新たな担い手の確保にも繋がって欲しいと願っております。

終わりに、スマートオフィスの完成にあたり、このプロジェクトに参加して頂いた全ての皆様、そして基本方針を作成して頂いたウィックス設計事務所の瀬下氏と梅澤前社長にこの場を借りて感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

令和4年4月吉日

株式会社郷土建設藤村組

代表取締役社長 藤村英明